

【B. 活動を持続・発展させるための中核となる技術】

3. 評価・改善

- | | |
|------|---|
| (9) | 事業実施後、カンファレンスを持ち、改善点を見出し、次の事業へ活かしていくことを繰り返す |
| (10) | 事業対象者の健康課題を継続的に把握し、事業の目的・目標に照らしあわせ、今後の課題を見出す |
| (11) | 事業の取組内容と、問題の実態や最新の知識とを突き合わせながら、目標、対象、方法を変えていく |
| (12) | 部署横断的に検討する場を設けることで、事業を改善する |

事例3：糖尿病及び高血圧罹患者の重症化予防を担当している伊藤保健師の話

（事例3－1）

伊藤保健師は、X町で糖尿病及び高血圧罹患者の重症化予防を担当している。X町では糖尿病の罹患者が高く、透析患者となる割合が多い状況が続いていた。糖尿病予防教室、高血圧予防教室を各年6回行っており、定員に対し8割程度の参加者はいる。また、各予防教室は対象者だけではなく、食生活改善推進員も参加し、減塩メニュー紹介などを行ったりもしている。X病院の医師の講義も行っている。しかし、参加者が固定化され、糖尿病、高血圧の罹患者ともに横ばいか微増傾向にあり、参加者の健診結果の改善もほとんど見られない状況であった。

【設問 3-1】伊藤保健師の立場から

あなたは、上記の4項目のどの項目を意識して、どのような取り組みをしますか？

～回答例：項目（9）、（10）を意識して～

伊藤保健師は、技術項目（9）「事業実施後、カンファレンスを持ち、改善点を見出し、次の事業へ活かしていくことを繰り返す」ことを意識して、予防教室終了後に食生活改善推進員と保健師でカンファレンスを毎回実施することにした。すると、食生活改善推進員から、減塩メニューを紹介しても予防教室参加者自身が、料理をすることがない者が多いため、メニューを生活の中に取り入れることが難しいのではないかと意見がでた。その意見を取り入れ、次の予防教室では、対象者だけではなく、家族の中で料理を担う者も参加できるようにした。

カンファレンスで出た意見が次の教室に取り入れられるようになったことから、予防教室に関するさまざまな意見が出るようになった。食生活改善推進員から教室に参加していた患者家族が、家では妻が減塩のみそ汁を作っても夫が食べる前に醤油を追加して食べてしまうと話していたことを話題に挙げた。また他の食生活推進員からも、減塩料理を作っても、食べる際に、調味料を追加してしまうことがある話題が出た。伊藤保健師は、技術項目（10）「事業対象者の健康課題を継続的に把握し、事業の目的・目標に照らしあわせ、今後の課題を見出す」ことを思い浮かべ、家族の中の料理を担う者にアプローチをするだけでは不足、個人個人へのアプローチが必要ではないかと考えた。

【設問 3-2】 同僚の立場から

伊藤保健師の同僚として、上記の4項目のどの項目を意識して、伊藤保健師にどのように関わりますか？

～回答例：項目（11）を意識して～

伊藤保健師の同僚保健師は、技術項目（11）「事業の取組内容と、問題の実態や最新の知識とを突き合わせながら、目標、対象、方法を変えていく」を思い浮かべ、教室のカンファレンスの中で、他市町の重症化予防において、推定塩分摂取量等を取り入れた指導が行われている話をした。また、伊藤保健師の上司からは、X病院から糖尿病性腎症のハイリスク患者に対し、病院と連携し、家庭訪問等のフォローアップを行ってほしいとの希望が出ている話があった。同僚保健師と上司の話を聞き、伊藤保健師は、病院から依頼のあったハイリスク患者に対し、集団指導の中で推定塩分摂取量等の評価を行ってみたいと発言した。

【設問 3-3】 上司の立場から

上司として、上記の4項目のどの項目を意識して、伊藤保健師を含む職場にどのように働きかけますか？

～回答例：項目（12）を意識して～

ハイリスク患者に対する集団指導の中で推定塩分摂取量の測定をすると、推定塩分摂取量が10g以上の者が数名見られた。伊藤保健師らはこの数名に対し、家庭訪問を実施したところ、対象者が無意識に塩分をとっている実態が明らかになった。さらに、塩辛いものを食べたいから、受診して薬を飲んでいると話す患者もいた。個々への支援を実施する一方で、家庭訪問から得られた情報を今後の事業にどう取り入れていくか考える伊藤保健師に、上司である保健師は技術項目（12）「**部署横断的に検討する場を設けることで、事業を改善する**」を思い浮かべながら、地域振興課と共同で行う健康フェアの打合せにおいて、町民が無意識に塩分を摂取している可能性について提示してみることを促した。健康フェアでは、食生活改善推進員と協力して減塩みそ汁の試飲を行う予定であった。伊藤保健師が、町民が無意識に塩分を摂取している可能性について提示することで、健康フェアにおいて食塩の味覚感度の検査の測定コーナーも設置することとなった。